資料４

視察報告書

平成３０年５月１１日

倉吉市議会議長　様

倉吉市議会
（代表）議員　大月　悦子　　印

政務活動費により行政視察を実施しましたので、次のとおり報告します。

記

1　視察期間　平成３０　年５月８　日（火）から平成３０　年５月８日（火）まで

2　視　察　先　鳥取県境港市　弓浜絣協同組合

3　視察議員名　大月　悦子

4　面　会　者　　鳥取県弓浜絣共同参画　理事長　田中　博文
工房ゆみはま

5　視察目的　　弓浜絣の振興について

6　視察の経過及び感想
別紙「行政視察報告書」参照

7　添付書類

（１）面会者名刺（写）

（２）行政視察報告書

（３）パンフレット

要した経費：　１　人合計　　2,280円

（別紙）

会派　つばき

「行政視察報告書」

（視察内容及び感想）

日時　平成３０年５月８日（火）　10:00～11：10

議員　大月悦子

１．　弓浜絣の歴史について

広瀬絣、弓浜絣、倉吉絣と山陰は昔から絣の産地として全国に名を馳せています。

鳥取県西部、米子から境港にかけての細長い約 20 kmの陸橋「弓ヶ浜（ゆみがはま）」が弓浜絣（ゆみはまがすり）のふるさとです。元々は自給用衣料として、また農家の副業として土地の人々に受け継がれてきた綿織物。藍と白の美しさ、素朴な絣柄の味わいが人気となり、明治７年、鳥取県は全国第三位の絣織物の生産量を誇っていましたが、その後工業化や時代の流れと共に次第に衰退していきました。そんな弓浜絣の復興に人生を掛けてきた人に嶋田悦子さんがおられます。

嶋田さんが織に目覚めた戦後、弓浜絣は風前の灯でした。そんな弓浜絣の復興への道のりは、夫の一言がきっかけだったそうです。こうして動き出した復興への道。しかし実際に反物を仕上げるまでには大変な苦労がありました。

しばらくすると、白洲正子さんが、ご自身のお店『銀座こうげい』で浜の絣（弓浜絣）を扱い始めてくださり、『東京で絣が売れるんだ』と大変喜びました。そうしてもう一度、弓浜絣が世の中に出て行ったんです。

砂地の多い鳥取県西部では、昔から綿の栽培が盛んに行われてきました。伯耆国（ほうきのくに）と呼ばれたこの地方で栽培された綿は伯州綿と呼ばれ、他の和綿にはない弾力のある風合いが特徴です。

帰郷後、嶋田さんは綿の栽培を本格的に始めます。様々な品種を試していくうちに、改めて伯州綿の魅力に気づかされます。

昭和 44 年にはご主人と共に弓ヶ浜に帰郷。「工房ゆみはま」を立ち上げ、以後この地で、絣の製作に没頭。

現在、弓浜絣は経済産業大臣指定の伝統工芸品、嶋田さんは県無形文化財保持者に指定されています。

それでも他の産地と同様に、生産者の高齢化、後継者不足は深刻な問題です。

近年では「工房ゆみはま」での仕事は主に娘夫婦に任せ、「弓浜絣伝承館」で後進の指導を熱心に行われています。（本日面会した方は島田さんの娘さんの夫、田中博文

さんです。※写真左側立っている）

「弓浜絣伝承館」（元県の産業技術センター）、は約 20 年間県の伝統産業支援を受け、後継者の養成と伝承の維持を中心に活動していた。

現在は鳥取県弓浜絣協同組合が中心に活動している。事務局も「弓浜絣伝承館」から自宅に置き、事務員も解雇した。

1975 年に国の伝統的工芸品、1978 年に鳥取県指定無形文化財に指定される。

２．人材育成について

経済産業省が実施しております「伝統的工芸品産業支援補助金」を活用するとともに、県と米子市、境港市による「弓浜絣産地維持緊急対策事業」の補助金を受けて実施。

平成 19 年度（年度途中）から平成 25 年度（年度途中）までは、主に「後継者養成」に取り組み、平成 25 年度から平成 29 年度までは「販路開拓」と「新商品開発」に取り組む。

現在工房は 6 工房（工房ゆみはま・織房　絲の文・鳥取弓浜中村くくり・南家織物・村上織物・弓浜絣工房Ｂ）

染を中心にしている人２人（30 歳代）、絲くくり２人（夫婦）、地元の男性 1 人他県外からの参加者もある。

３．今後の課題について

最近組合に加入していないで活動している人もいる、連携の仕方について

手仕事なので、時間も要し、生業としていくことが難しい

くくりが大きな課題　一般には機械（村上さん）が一手に受けておられたが亡くなられ困惑している。中村公房が行っている。

染める技、現在はほとんど広瀬で行っている。

※手仕事として残してゆく、その意味を大切に。地元にいろんな作業所があると良い。

※若者が育ちつつある、続けていきたい

※おらが町の文化　意識を高めたい

※生産性と伝統の継承

※メディアの活用大切

※将来は銀座に合う絣としてＰＲしたい。

2 年前まで新橋のアンテナショップに出していた。

４．お話の最後に、山陰の三大絣を大いにＰＲしたい

「三大絣展」のような催しが開けると、大きな宣伝になるのではないかと花が咲き

ました。
良さを知ってもらうためには手に取って、見てもらうことが大切ということを痛感いたしました。倉吉絣も反物だけでなく、たくさん織物があります。
伝承していくためには、後継者を作ること、生業として行けることなど、課題は多いですが、今回の視察で学んできましたこと本市に還元できることを取り入れ、市民の皆様のお役に立てるよう精いっぱい頑張りたいと思います。研修に行かせていただきありがとうございました。

当日織りに来られていました